

Ⅱ 武蔵野市民科の

実践事例等

- 29～36 ページの実践事例は、小中連携教育研究協力校である境南小学校、第五中学校で実践されたものです。
- 37～49 ページの実践モデル案は、武蔵野市民科カリキュラム作成委員会で提案された授業案等です。

- 1 単元名 未来に向けて
学習テーマ キャリア発達

2 育成を目指す資質・能力

○知識・技能の習得	(自立) 自己理解、自己管理
	(協働) 他者理解、人間関係形成
	(社会参画) 地域や社会的課題などへの理解
○思考力・判断力・表現力等の育成	(自立) 情報を活用する力
	(自立) クリティカル・シンキング(批判的思考)
○学びに向かう力・人間性等の涵養	(自立) 自尊感情(自己肯定感)
	(社会参画) 公共心、社会連帯の自覚

3 単元において具体的に育成を目指す資質・能力

○知識・技能の習得	職業人との対話から様々な職業への理解や職業人の思いにふれる。 自分や友達の個性について、将来の職業に活かす観点から改めて見直し理解する。
○思考力・判断力・表現力等の育成	ゲストティーチャーとの関わりや図書資料等の多様な情報から、必要なものを選択し、活用する力を育成する。 職業について考える中で、自分の生活についての認識を新たにする。
○学びに向かう力・人間性等の涵養	職業や職業人について自分事として考えることをとおして、将来への希望をもとうとする態度を養う。 社会は、様々な人の思いや努力・協力で成立していることに気付き、自身もその一員であるとの自覚を養う。

4 中核となる教科等の単元計画 (中核教科等名: 総合的な学習の時間)

ねらい	時数	主な学習活動	関連教科・関連団体
学年全員で職業人の話を聞くことをとおして、職業や職業人に関心をもち、本単元の共通体験とする。	2	女性記者として初めて南極越冬隊に同行するとともに、北極や山岳氷河で地球環境取材してきた新聞記者をゲストティーチャーとして招き、新聞記者になった動機や仕事の魅力や苦勞など、職業人としての話を聞く。	新聞社 社会部専門記者
自分のなりたい職業を調べ、仕事内容を知るとともに、多様な情報から必要なものを選択する力を育成する。	12	将来なりたい職業について考え、その仕事の内容や魅力、その仕事に就くために必要な事柄等を調べ、まとめる。	保護者や地域協力者
ゲストティーチャーの話を聞くことで、職業人の思いに触れ、働くことへの理解を深める。	6	児童の興味・関心に基づいたグループごとに、じっくりとゲストティーチャーの話を聞いたり質問をしたりする(2時間)。 個々の情報を全体で共有するとともに、自分のなりたい職業を改めて考える。	保護者をゲストティーチャーとして招く。
仕事をするとはどういうことか話し合うことをとおして、働くことや生き方についての考えを深める。	2	自分で調べたことやゲストティーチャーとの関わりをとおして、改めて「仕事をする」ということのイメージを交流し、一人一人そのイメージが違っていても、仕事について真剣に考え自分の生き方につなげることを確認する。	
自分の未来予想図を作ること、自分の将来像を考え、希望をもとうとする態度を養う。	5	学習のまとめとして、自分を客観的に見たときの長所や特徴、将来なりたい職業やそのための努力、どんな人になりたいのか等々、小学校卒業後の自分の姿を思い浮かべながら「未来予想図」としてまとめ、交流する。	

5 関連する教科等の学習活動

関連教科等名と単元名	時数	主な学習活動
特別の教科道徳 【A一個性の伸長】	2	将来の職業を考えることを視点として、互いによさや特徴、向いていると思う職業等について考え、交流する。

合計時数 29 時間

6 指導上の工夫

保護者にゲストティーチャーのお願いする際は、保護者会等で趣旨を説明して依頼をする。保護者だけで不足の場合は、地域コーディネーターや商店会等を通して依頼する。

「仕事をするとはどういうことか」を考える際には、各自付箋に自分の考えを記入し、KJ法の手法で班ごとに整理する。

7 育成を目指した資質・能力の観点からの児童・生徒の変容

	具体的に「何ができるようになったのか」
○知識・技能の習得	様々な職業について、実際に働いている人との関わりをとおして、仕事の苦労ややりがい、たくさんの方が協力して社会が成り立っていることなどを知ることができた。自分自身や友人について見直し、良さや意外性などに気付くことができた。
○思考力・判断力・表現力等の育成	ゲストティーチャーの話をじっくり聞くなどの活動を通して、漠然とした憧れから一歩進めて、具体的に自分のなりたい職業について考え、調べることができた。
○学びに向かう力・人間性等の涵養	やりがいと責任、楽しさと苦労など、相反するかに思えた「職業」という概念が、混在して存在し、人としての成長につながると感じることができた。「楽しみになった」「責任が重いな」など、職業を自分事として捉えることができた。
児童・生徒の感想等	（ゲストティーチャーの話を聞いて） 多くの苦労や失敗を乗り越えることで喜びや問題解決の能力を身に付けるということが分かり、大変そうに思うことも失敗を恐れず取り組んでいこうと思いました。 話を聞いて、メガネを見たりすると、「このレンズにも、光学薄膜がついてるんだよね」と見方が少し変わりました。 日本の常識が世界の常識であるとは限らないと知り、今後、外国に行く際には、その国の当たり前と日本の当たり前を比べてみてもおもしろそうだと思います。 （互いのよさの交流） みんなが私の良さとしてあげたものは、自分では思ってもいなかったこともあり、「ああ、そうなのかなあ」と思いました。

8 課題とその改善策

～課題～ ○児童・生徒に市民性を育てていく上での課題 ●武蔵野市民科を実施する上での課題	～改善策～ ○市民性育成上の課題に対する改善策 ●武蔵野市民科実施上の課題に対する改善策
○探究への意欲を高めるには、児童のもっている知識や思いを揺さぶるゲストティーチャーが効果的であるが、依頼する内容、時間、環境の設定が重要であり、単に知識の伝達ではなく、人柄や思いが伝わるような工夫が必要である。 ●総合的な学習の時間と、特別の教科 道徳や特別活動等を組み合わせて武蔵野市民科の単元を作る際、武蔵野市民科のねらいと各教科・領域固有のねらいを両立させることが必要である。	○ゲストティーチャーを依頼する場合は、依頼内容（専門性、児童にとって身近な存在、共に考える立場等々）を明確にし、事前に説明する。（本単元では、多様な職業、児童にとって身近な保護者が職について語る意外性をねらった。また、45分間を一人のゲストティーチャーとじっくりかかわる環境設定が効果的であった。） ●武蔵野市民科及び各教科・領域の目標や内容を確認した上で単元に組み込み、評価に関してもそれぞれの観点から行って記録する。その繰り返しにより、武蔵野市民科の単元づくりが円滑に進むようになる。

1 単元名 境南とことん研究所

関連テーマ 伝統・文化理解

2 育成を目指す資質・能力

○知識・技能の習得	（社会参画）地域や社会的課題などへの理解
○思考力・判断力・表現力等の育成	（自立）情報を活用する力 （社会参画）よりよい地域・社会づくりに向けた課題解決能力
○学びに向かう力・人間性等の涵養	（社会参画）公共心、社会連帯の自覚

3 単元において具体的に育成を目指す資質・能力

○知識・技能の習得	武蔵野市や境南町の「よさ」について理解を深めるとともに、地域の人々の努力や工夫に気付く。
○思考力・判断力・表現力等の育成	日光移動教室をとおして気付いた日光の「よさ」を基に、自分たちの住む「武蔵野市や境南町」を人に薦めるといふ視点で多面的に見直す力を育成する。 相手や目的に合わせて必要な情報を選択してパンフレットとして表現する力を育成する。
○学びに向かう力・人間性等の涵養	地域の方の思いや取組を知って感じた武蔵野市や境南町の「よさ」をまとめ、発信することをおして、地域社会に対して自分ができることを実行しよう、関わろうとする態度を育む。

4 中核となる教科等の単元計画（中核教科等名：総合的な学習の時間）

ねらい	時数	主な学習活動	関連教科・関連団体
日光で発見した「よさ」を武蔵野市や境南町に置き換え、まちの「よさ」を見つめ直す。	2	日光移動教室で気付いた日光の「よさ」を挙げる。 武蔵野市や境南町の「よさ」を考える。地図に自分の知っている「よさ」をプロットし、共有する。	
パンフレットの特徴を調べ、相手や目的を考えてパンフレットの構想を立てる。	1	八丈島の6年生が作成したパンフレットや日光のパンフレットを見ながらどのような構成でできているかを確認する。 誰に向けてどんなことを伝えるのがよいか話し合い、構想を練る。	
取材計画を立て、実際に地域の方々に対して取材を行う。	4	パンフレットの相手や目的に応じてどのように情報を集めるかを考え、計画を立てる。 実際に取材や調べ学習をとおして、必要な情報や材料を集める。	
情報や材料から使いたいものを選び、構成を考え、パンフレットを作成する。	4	集めた情報から必要なもの、状況がよく分かるもの等を選び、パンフレットの構成を考える。 興味をもってもらうためのキャッチコピーを考える。 下書きを書き、パンフレットを清書する。	国語科で学んだ手法の活用
パンフレットを読み合い、感想を交流するとともに、活用する。	1	読み合うときのポイントに注意しながら、読み合い、アドバイスを付箋に書き、交流する。 公共施設に掲示をお願いしたり、駅にパンフレットを置いてもらったり、校内に掲示・配布したりする。	

5 関連する教科等の学習活動

関連教科等名	時数	主な学習活動
国語「ようこそ、私たちの町」	12	本単元と関連させ、武蔵野市や境南町のよさを伝えるために、どうパンフレットを作成したらよいか、その特性を理解し、文章全体や目次、見出し等を工夫して仕上げる。
総合的な学習の時間「日光とことん研究所」	12	「日光」の自然や歴史・文化を知り、豊かな自然に触れて、心と体を成長させる。境南タイムで取り組む学習過程を、直接体験して深める。体験したことや調べたことをパンフレットにまとめ、下級生や保護者に見てもらう。

合計時数 36 時間

7 指導上の工夫

単元の導入では、ICTを活用し、日光の様子を視覚的な資料を多く提示することで日光の「よさ」を振り返り、武蔵野市や境南町の「よさ」を考える参考とする。

単元の導入において、境南町周辺の地図に知っていることやおすすめの場所を書き込み、自分の町「境南町・武蔵野市」の「よさ」を発見できるようにする。

8 育成を目指した資質・能力の観点からの児童・生徒の変容

	具体的に「何ができるようになったのか」
○知識・技能の習得	自分たちの町を見直し、新たな魅力や課題に気付くことができた。
○思考力・判断力・表現力等の育成	自分たちの町の魅力を発信するために、伝えたい対象や内容、方法を工夫し、チームで協力してまとめ、発信することができた。
○学びに向かう力・人間性等の涵養	自分たちの学びの成果や思いを、他者（他学年・保護者・地域の人・駅で降りる人等々）に伝える過程をととして、地域に主体的に関わろうとする態度を養うことができた。
児童・生徒の感想等	自分が知っている場所も出てきたが、知らないところもあった。 武蔵境駅の改札にパンフレットを置いてもらえて、すごくうれしかった。

9 課題とその改善策

～課題～ ○児童・生徒に市民性を育てていく上での課題 ●武蔵野市民科を実施する上での課題	～改善策～ ○市民性育成上の課題に対する改善策 ●武蔵野市民科実施上の課題に対する改善策
○本単元は、武蔵野市民科で育てたい資質・能力が児童の姿としてストレートに表れやすいが、そうではない単元の時に、児童の思いや願い、課題意識を踏まえ、 「市民性」につなげようとする教師の意図が強過ぎてはならない。 ○課題別グループで、町に出て取材をしたり、パンフレット等を置かせてもらったり掲示させてもらったりするのに行き活動については、教員だけが引率するのでは人数が足りない。 ○児童が他の児童・保護者・地域等に発信する活動では、やって終わりではなく、発信を受けた人の感想等を知ることが大切である。	○児童の活動の様子から、小さなものであっても「市民性」につながる要素を見逃さず、それを広げたり深めたりする教師の力を伸ばすことが重要である。 ○今回は、アンケート用紙を配ったグループがある。ポスター等であれば、項目を作ってシールを張ってもらうなども考えられる。 ●今回は児童が放課後に取材をしたり、教員が昼休みの時間に引率したりしたが、学校として活動を確立するには、保護者・地域の支援をお願いすることが大切である。

1 単元名 大町市・白馬村から武蔵野を振り返る

関連テーマ 長期宿泊体験活動

2 育成を目指す資質・能力

○知識・技能の習得	(社会参画) 地域や社会的課題などへの理解
○思考力・判断力・表現力等の育成	(協働) 目標の達成に向けた他者との協力 (社会参画) よりよい地域・社会づくりに向けた課題解決能力
○学びに向かう力・人間性等の涵養	(協働) よりよい生活を協力して築こうとする態度 (社会参画) 公共心、社会連帯の自覚

3 単元において具体的に育成を目指す資質・能力

○知識・技能の習得	自分たちの住むまちと、大町市や白馬村の自然や産業について比較する中で、それぞれの特徴について理解を深める。
○思考力・判断力・表現力等の育成	他者と協力して、まちの課題を発見し、解決向けどうしたらよいか考え、発信する力を養う。
○学びに向かう力・人間性等の涵養	セカンドスクールを成功させるために仲間と協力し合う態度を養う。 セカンドスクールの学習をとおして理解を深めた武蔵野のコミュニティに進んで関わろうとする姿勢を培う。

4 中核となる教科等の単元計画 (中核教科等名：総合的な学習の時間)

ねらい	時数	主な学習活動	関連教科・関連団体
セカンドスクールに向けた事前指導をとおして、武蔵野市と大町市・白馬村それぞれの理解を深める。	8	武蔵野市及びその周辺について、地勢、産業、歴史、文化等を調べ、仁科台中学校とのポスターセッションに備える。 千国街道を中心とした地域の風土、風俗等を調べ、街歩き探訪や民宿の交流に備える。	学校行事 JA大北
セカンドスクールの各種の取組をとおして、協調性や課題解決能力などの育成を図る。	23	塩の道ちょうじや見学、大町市内探訪、八方池登山、稲刈り体験などをおして、大町市や白馬村のよさを体験の中で学ぶ。 仁科台中学校と、お互いの住む地域に関するポスターセッションをおして、社会参画などの市民性を養う。	学校行事 JA大北 仁科台中学校
セカンドスクールをとおして得た学びをポスターセッションで自分の言葉で表現する。	8	交流学习、農家体験等で発見した課題を解決し、その結果をポスターセッション形式で発表する。	学校行事 JA大北 各農家

5 関連する教科等の学習活動

関連教科等名	時数	主な学習活動
セカンドスクール中の学校行事	9	現地での入村式やオリエンテーション、民宿の方との食事会、現地の伐採物の清掃など、遠足・集団宿泊的行事や勤労生産・奉仕的活動を行う。

合計時数 48 時間

7 指導上の工夫

第3学年で実施する市長への提言など、自分の意見を社会に向けて発言できる力の育成を念頭におき、各学年段階でどのような力を育成すべきか考え、系統立てて指導する。特に第1学年では、プレゼンテーション能力の育成に重点を置く。

先輩のプレゼンテーションを示すなどすることで、生徒の意欲を向上させるとともに、よい発表はどのようなものなのかについてイメージをつかませる。

8 育成を目指した資質・能力の観点からの児童・生徒の変容

	具体的に「何ができるようになったのか」
○知識・技能の習得	調査内容を分析し、ポスター等に表現できる技能を習得した。
○思考力・判断力・表現力等の育成	調査活動を通じて得られた情報を精査し、自分の言葉で語り、プレゼンテーションすることができた。
○学びに向かう力・人間性等の涵養	ポスターセッションを通じて、よい方向へセッションできる力を身につけ、コミュニケーション能力を高めることができた。
児童・生徒の感想等	小学校のセカンドスクールでは、何をやったか忘れてしまった経験があった。中学校のセカンドスクールでは、自分たちで考えたり振り返りをすることができたため、主体的に活動に取り組むことができた。「自由で厳しかった。」という感想もあった。

9 課題とその改善策

～課題～ ○児童・生徒に市民性を育ていく上での課題 ●武蔵野市民科を実施する上での課題	～改善策～ ○市民性育成上の課題に対する改善策 ●武蔵野市民科実施上の課題に対する改善策
○教え込みではなく、いかに主体的に学び活動していくかが課題である。 ●主に総合的な学習の時間の中で実施しているが、授業時間内ではやりきれないため、放課後にも活動時間を設定している。授業時間の確保が課題である。 ●関係機関や指導員等との連絡・調整等に、膨大な時間と労力を費やすため、生徒指導や授業準備等に支障をきたしている。	○活動時間を確保した上で、指導計画や指導方法を共有・伝達していく。 ●課外活動や放課後の活動の取り扱いの検討が必要である。 ●提出書類や役割分担を見直すことで、学校における事務仕事を簡素化していくことが急務である。また、学校と現地を結びつけるコーディネーター（現地の方）の確保が重要である。

1 単元名 武蔵野市改造計画ーズバリ市長に提言ー

関連テーマ まちづくりへの参画

2 育成を目指す資質・能力

○知識・技能の習得	(社会参画) 地域や社会的課題などへの理解
○思考力・判断力・表現力等の育成	(自立) 情報を活用する力 (協働) 目標達成に向けた他者との協力 (社会参画) よりよい地域・社会づくりに向けた課題解決能力
○学びに向かう力・人間性等の涵養	(社会参画) 公共心、社会連帯の自覚

3 単元において具体的に育成を目指す資質・能力

○知識・技能の習得	これまでの体験や知識と公的な資料を基に、自分たちが住む武蔵野市における地域課題についての理解を深める。
○思考力・判断力・表現力等の育成	ポスター作りやセッションをとおして、地域の課題を解決するにはどうしたらよいか、具体的な調査計画を立てたり、調べたことを基に課題解決のためのアイデアを考えるなどの課題解決能力を育成する。
○学びに向かう力・人間性等の涵養	自立した市民の一員として、よりよい地域づくりに進んで参画しようとする意欲や態度を養う。

4 中核となる教科等の単元計画 (中核教科等名: 総合的な学習の時間)

ねらい	時数	主な学習活動	関連教科・関連団体
武蔵野市の50年後、未来のグランドデザインについて考え、ポスターセッションをすることと、市の特徴や課題をつかむ。	5	武蔵野市のよさや課題についてブレインストーミングをとおして様々な意見を出し合う。 発表のポスターを作成し、ミニポスターセッションを行う。	
前時までの学習から分野を絞り、具体的な提言を考えることと、課題解決の計画能力を育成する。	5	未来のグランドデザインの中から分野を絞り、問題解決のための具体的な提言内容を検討する。 具体的な提言に関するフィールドワークを行うための計画を立てる。	
フィールドワークをとおして、地域や社会的な課題に対する問題解決能力の育成を図る。	5	問題解決のためのフィールドワークやアンケートなどの調査活動を行う。 問題解決の考察のために、市役所の専門家に相談をする。 上記の内容を中間報告会で報告し合う。	地域関係機関 (JR、商店等、武蔵野市役所)
ポスターセッション、タウンミーティングをとおして、地域社会に積極的に関わる姿勢や、問題解決能力の育成を図る。	5	これまでの調査活動を基に、提言内容をポスターにまとめる。 発表原稿を作成し、発表練習を行う。 市長を招き、ポスターセッション、タウンミーティングを行う。	武蔵野市役所

5 関連する教科等の学習活動

関連教科等名と単元名	時数	主な学習活動
道徳D-16「郷土を愛する態度」	2	地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、その発展に努めるにはどうしたらよいか考え、議論する。

合計時数 22 時間

7 指導上の工夫

1、2年生をポスターセッションに参加させ、優れた発表について評価させることで、生徒の意欲向上を図るとともに、よりよい発表の在り方のモデルを下学年から学べるようにする。具体的には、金色のシールを5枚事前に配布し、シール1枚1億円として「もしも君が武蔵野市長ならどれに投資するか」という視点で評価させ、選ばせる。

中学生と市長とのタウンミーティングは、司会進行を前生徒会長と役員が行うなど、生徒が主体的に運営できるようにする。

8 育成を目指した資質・能力の観点からの児童・生徒の変容

	具体的に「何ができるようになったのか」
○知識・技能の習得	市政や地域課題について、問題解決に関する知識・技能を発揮できるようになった。
○思考力・判断力・表現力等の育成	問題解決の中で、アイデアを提案する能力を高めることができた。
○学びに向かう力・人間性等の涵養	市民性に関する資質・能力を高めることができた。
児童・生徒の感想等	地域や市について調べていくうちに、地域や市に対する感心が深まった。 問題を分析したり、自分の考えをもつことで、主体的な気持ちが高まった。 自分なりの考えを提案することで、市民としての自覚が芽生え、地域や市に対する愛着が強くなった。

9 課題とその改善策

～課題～ ○児童・生徒に市民性を育んでいく上での課題 ●武蔵野市民科を実施する上での課題	～改善策～ ○市民性育成上の課題に対する改善策 ●武蔵野市民科実施上の課題に対する改善策
○指導計画や指導方法の共有や伝達が課題である。 ●主に総合的な学習の時間の中で実施しているが、授業時間内ではやりきれないため、放課後に活動時間を設定している。授業時間の確保が課題である。 ●学校・地域・市との円滑な連携が課題である。	○生徒の能力を信じて、生徒の自主性を引き出す環境づくりを構築していく。（指導計画、指導方法、授業時数、地域や市との連携等） ●課外活動や放課後の活動の取り扱いの検討が必要である。 ●教員・地域・市の大人側が、生徒の市民性を育もうとする意識を高めていくことが必要である。

1 単元名 防災について考えよう

学習テーマ 安全・防災

2 育成を目指す資質・能力

○知識・技能の習得	(自立) 自己理解、自己管理
○思考力・判断力・表現力等の育成	(社会参画) よりよい地域・社会づくりに向けた課題解決能力
○学びに向かう力・人間性等の涵養	(社会参画) 公共心、社会連帯の自覚

3 単元において具体的に育成を目指す資質・能力

○知識・技能の習得	「3.11を忘れない」「東京防災」などの資料から災害や防災の現状を知るとともに、武蔵野市の取組や防災に携わる人々の努力や工夫に気付く。 救命救急講習をとおり、応急処置の仕方を理解し、できるようにする。
○思考力・判断力・表現力等の育成	調べ学習を通して、災害から身を守る方法や地域・身近な人に対して何ができるかを考え、話し合い、まとめたことを発信する学習をとおり、相手や目的に適した表現方法を考えて発信する力を育む。
○学びに向かう力・人間性等の涵養	市役所や消防署の方の話を聞いたり、地域の方の思いを踏まえて自分の感じたことをまとめたりする学習をとおり、自分にできることやよさに気付き、それを生かしながら地域社会に進んで関わろうとする態度を育てる。

4 中核となる教科等の単元計画

(中核教科等名 総合的な学習の時間)

ねらい	時数	主な学習活動	関連教科・関連団体
自然災害についての学習課題をもつ。	1	避難訓練や災害の経験、災害に応じた安全対策について学習したことを振り返る。 「3.11を忘れない」などを活用し、日本の災害やその被害、特徴について調べる。	
災害に対する備えについて考え、学習計画を立てる。	2	身近なところにある備えについて調べ、何を準備したらよいのかを話し合う。 準備しなければならないことについて、「自分」「家族」「地域」の観点で整理し、今後の学習の見通しをもつ。	
身の守り方について知る。	4	「3.11を忘れない」や「東京防災(防災ノート)」などを活用し、災害から身を守るために必要なことを調べる。 市役所や消防署の方の話を聞く。 救命救急講習を受け、応急処置の仕方を調べる。	防災課
自分にできることについて考える。	2	災害時や避難所での人々の行動や過ごし方、人々の協力について調べる。 身近な人々や地域に対して自分には何ができるかまとめる。	〇〇小地域防災ネットワーク
防災について学んだことを伝え合い、考えを深める。	2	学習をとおり学んだこと、考えたことを発表し合う。 地域に対し自分たちができることを話し合い、まとめる。 まとめたことを発信する。	

5 関連する教科等の学習活動

関連教科等名	時数	主な学習活動
社会科「自然災害を防ぐ」	5	自然災害の発生状況やその防止の取組に着目し、国土と自然災害との関係や国や地方自治体などが進めている様々な対策について調べ、自然災害の多い国土で生活する国民としての在り方を考える。

合計時数 16 時間

6 備考

--

1 単元名 環境問題を考えよう

学習テーマ 環境

2 育成を目指す資質・能力

○知識・技能 の習得	（社会参画）地域や社会的課題などへの理解
○思考力・判断力・表現力等の育成	（自立）情報を活用する力 （社会参画）よりよい地域・社会づくりに向けた課題解決能力
○学びに向かう力・人間性等の涵養	（自立）規範意識・責任感 （協働）よりよい生活を協力して築こうとする態度 （社会参画）公共心、社会連帯の自覚

3 単元において具体的に育成を目指す資質・能力

○知識・技能 の習得	武蔵野市の抱える環境問題を理解するとともに、それらの環境問題が地球温暖化につながっていることを理解する。
○思考力・判断力・表現力等の育成	武蔵野市の抱える環境問題について調べ、その課題を解決するために自分にできることを考える力を育成する。
○学びに向かう力・人間性等の涵養	武蔵野市の環境に興味・関心をもつとともに、武蔵野市の豊かな自然を守るために自分ができることを考えながら生活しようとする態度を養う。

4 中核となる教科等の単元計画

（中核教科等名 総合的な学習の時間）

ねらい	時数	主な学習活動	関連教科・関連団体
私たちの住んでいるまちについて確認する。 地球温暖化について確認する。	1	武蔵野市の特性を確認し、どのような環境問題があるか予想する。 地球温暖化の現状について知り、武蔵野市が抱える環境問題も地球温暖化につながっていることに気付く。	
武蔵野市にはどのような環境問題があるかを理解する。	2	施設に見学に行ったり、ゲストティーチャーの話を聞いたりして武蔵野市が抱える環境問題について理解する。（ごみ、空気の汚れ、水の汚れ、ヒートアイランド現象、騒音、悪臭、土壌汚染、生き物の変化（かいぼり）、湧水）	市役所 クリーンセンター 水道部など
武蔵野市が抱える環境も台に対して、自分はどんなことができるか考える。	2	学習して分かった環境問題の中から、自分で取り組みたい課題を決め、その解決のために何ができるか考え、家庭で実施するアクションプランを作成する。	
自分で考えたアクションプランを各家庭で実践する。	0	自分が考えたアクションプランについて、家庭で2週間実践する。その様子や感じたことを学習シートにまとめる。	保護者
振り返りを書いて、その後の生活につなげることができるようにする。	1	友達と、自分が実践してよかったことや環境保全のために大切だと感じたことを交流する。交流したことを基に単元全体を振り返り、今後の生活にどのようにつなげていくかを考え、学習シートに記入する。	

5 関連する教科等の学習活動

関連教科等名	時数	主な学習活動

合計時数 6 時間

6 備考

--

1 単元名 協力して成功させよう！ セカンドスクール
学習テーマ 長期宿泊体験活動

2 育成を目指す資質・能力

○知識・技能の習得	（協働）他者理解、人間関係形成 （社会参画）地域や社会的課題などへの理解
○思考力・判断力・表現力等の育成	（協働）目標達成に向けた他者との協力 （社会参画）よりよい地域・社会づくりに向けた課題解決能力
○学びに向かう力・人間性等の涵養	（協働）よりよい生活を協力して築こうとする態度

3 単元において具体的に育成を目指す資質・能力

○知識・技能の習得	班員同士で協力し、目標を達成するための話し合いや合意形成の図り方の理解を深める。自分たちのまちと訪問先のまちを比べ、それぞれの特徴について理解を深める。
○思考力・判断力・表現力等の育成	武蔵野市と訪問先のまちのよさについて、調査や体験したことを基に各自で考え、それらをグループとして統合、表現する活動をととして、情報を基に考える力や協力して表現する力を育成する。
○学びに向かう力・人間性等の涵養	セカンドスクールの諸活動での協力をととして、力を合わせて目標を達成しよう、よりよい取り組みにしていこうとする態度を養う。

4 中核となる教科等の単元計画（中核教科等名：総合的な学習の時間）

ねらい	時数	主な学習活動	関連教科・関連団体
訪問先のまちの様子や活動の概要を知り、班としての目標を設定する。	1	前年度の活動時の写真等を活用し、訪問先の様子や活動を知る。全体のテーマとして「協力」を掲げることを示し、多くの時間を共に過ごす班員と、班としてどのようなセカンドスクールにするか、宿での生活や各種の活動時ごとに目標を設定する。	特別活動
調べ学習をととして、武蔵野市と〇〇市の自然や産業について確認する。	4	班の中で、自然、産業、交通、文化などテーマごとに分かれ、訪問先のまちの特徴について調べ、まとめる。その際、武蔵野市との違いについても考える。それぞれに調べた内容について共有し、訪問先の概要を知る。	
セカンドスクールでの取組をととして、訪問先のまちの自然や産業などの特徴を学ぶ。	30	稲刈り体験、自然体験ハイキング、伝統工芸体験、郷土食づくりなどをととして訪問先のよさを学ぶ。毎日の振り返りや朝会時に、班の目標に対してどの程度できたか、今日は何をを目指すのかを確認し、活動に取り組む。	訪問先の観光協会や宿舎等
セカンドスクールで学んだことや、訪問先の特徴を班でまとめ、	8	ピラミッドチャートを活用し、セカンドスクールで自分が何を学んだかを班で共有し、班として一番大きな学びは何だったかを話し合う。セカンドスクールで学んだことや訪問先の特徴をプレゼンテーションソフトを使ってまとめ、学校公開や下学年に向けて発信する。	

5 関連する教科等の学習活動

関連教科等名と単元名	時数	主な学習活動
特別活動 学級活動	3	班ごとの役割分担や、各係での目標設定、ルールやきまりづくりなど必要な準備を行う。
社会科「くらしを支える食料生産」「米づくりのさかんな地域」	13	食生活を支えている様々な食べ物の主な産地や、米をはじめとした農業の取組について調べる。

合計時数 59 時間

6 備考

セカンドスクールは自立・協働・社会参画の資質・能力について、多様な学習を展開できる。ここでは、市民性の中でも「協働」に焦点を絞った指導計画を作成する。

1 単元名 働くってどういうことだろう

学習テーマ キャリア発達

2 育成を目指す資質・能力

○知識・技能 の習得	（協働）他者理解、人間関係形成
○思考力・判断力・表現力等の育成	（自立）情報を活用する力 （社会参画）よりよい地域・社会づくりに向けた課題解決能力
○学びに向かう力・人間性等の涵養	（社会参画）公共心、社会連帯の自覚 （協働）よりよい生活を協力して築こうとする態度

3 単元において具体的に育成を目指す資質・能力

○知識・技能 の習得	学区の吉祥寺駅周辺にはお店が多いことを理解し、商売をする人がどのように接客をするのかを理解する。
○思考力・判断力・表現力等の育成	商売をする人の工夫や苦勞を捉え、働くということはどういうことなのかを自分なりに考える情報活用力を育成する。
○学びに向かう力・人間性等の涵養	働くということに対する興味を高め、自分の将来設計に生かそうとする態度を養う。

4 中核となる教科等の単元計画（中核教科等名：総合的な学習の時間）

ねらい	時数	主な学習活動	関連教科・関連団体
吉祥寺駅の焦点の様子を知り、働くということはどういうことかを考える。	1	吉祥寺駅の周辺には商店街やお店が多くあることを理解し、その周辺に住む私たちはどうすればよいか考える。 学習前の時点で、「働く」ということとはどういうことかを考え、その後の学習に生かす。	
接客の基本について学び、働く人の工夫や苦勞を捉える。	4	セブンアイホールディングスの研修センターに行き、接客体験（商品ディスプレイ・レジ打ち）や商品製造体験を通して、物を売るということや接客をするということは、どういうことなのかを理解する。	セブンアンドアイホールディングス
職業体験を通して、学んだを生かして、自分が興味をもっている仕事について調べ、まとめる。	2	自分が興味をもっている仕事について調べ、職業体験で学んだ視点（魅力や工夫、苦勞など）からその仕事について、1枚のレポートにまとめる。	
各自が調べてまとめたものを一つにまとめる。	2	各自がまとめたレポートを一冊にまとめ、「〇〇小仕事図鑑」を作成し、来校者や保護者に紹介する。	保護者

5 関連する教科等の学習活動

関連教科等名	時数	主な学習活動

合計時数 9 時間

6 備考

--

1 単元名 共に生きる

学習テーマ 福祉・ボランティア

2 育成を目指す資質・能力

○知識・技能の習得	（社会参画）地域や社会的課題などへの理解 （協働）他者理解・人間関係形成能力
○思考力・判断力・表現力等の育成	（自立）情報を活用する力 （自立）クリティカル・シンキング（批判的思考） （社会参画）よりよい地域・社会づくりに向けた課題解決能力
○学びに向かう力・人間性等の涵養	（協働）よりよい生活を協力して築こうとする態度 （社会参画）公共心、社会連帯の自覚

3 単元において具体的に育成を目指す資質・能力

○知識・技能の習得	吉祥寺周辺には、様々な公共施設や多くの人が活用する商業施設が多く存在することを知り、各施設が、誰もが使いやすいような工夫をしていることについて理解を深める。 障害者の生活について知り、バリアフリーについて理解する。
○思考力・判断力・表現力等の育成	グループで課題の解決策について話し合い、発表することとおして、武蔵野市をよりよいまちにするにはどうしたらよいか、様々な立場の人や様々な観点から多面的に考える力を育む。
○学びに向かう力・人間性等の涵養	武蔵野市のよさを知り、より誇れるまちにするために自分にできることや、住む人だけではなく、訪れる全ての人が、安心して生活できるようにするための工夫を考えることとおして、市民として自分ができることを日常的に考えて生活しようとする態度を養う。

4 中核となる教科等の単元計画

（中核教科等名：総合的な学習の時間）

ねらい	時数	主な学習活動	関連教科・関連団体
5人制サッカー（パラリンピック）の選手との交流や、実技体験を通して障害者の生活について理解する。	2	パラリンピアンや障害者スポーツの体験をとおして、障害者スポーツへの興味・関心の向上や、障害のある人への理解を深める。 障害者が苦労していることや不安に感じていることを知り、自分にできることを考える。	東京都教育委員会（「自分にチャレンジ」プロジェクト）
バリアフリーについて理解を深め、その視点から武蔵野市の施設について調べる見通しをもつ。	1	共生のために必要な「バリアフリー」について理解するとともに、学校や周辺施設にはどんな工夫があったかを思い出したり、実際に見学して確かめてみたい施設を考えたりして、学習課題を立て見通しをもつ。	社会科
吉祥寺駅の周辺の施設をバリアフリーの視点をもって見学し、各施設の工夫や課題について捉える。	2	吉祥寺駅周辺にある施設をバリアフリーの視点で見学し、誰もが使いやすい施設であるための工夫を見つけたり、改善が必要な点について考えたりする。 見学の際に疑問に感じたことは施設の方にインタビューしたり、デジタルカメラでその様子を撮影したりして課題解決につなげる。	コミセン 駅デパート 図書館など地域の施設
各施設がもつ課題を解決する工夫を考えたり、調べたりする。それぞれの考えについて話し合い、考えをまとめる。	4	各施設の課題をどうすれば解決できるかを考えたり、調べたりする。 調べたことを基に、課題解決のプランを考え、グループで話し合い、意見をまとめる。批判的思考を生かし、グループでまとめたプランをプレゼンテーションソフトでまとめる。	
グループごとに、自分たちの考えた課題解決のためのプランを発表し合い、よりよい生活を協力して築こうとする。	2	それぞれのグループで考えたプランを、他のグループの児童や保護者に発表する。共通理解したことを基に、今後の生活について考えを広げる。	保護者

5 関連する教科等の学習活動

関連教科等名	時数	主な学習活動
国語 「意見を聞き合って考えを深め、意見文を書こう」	11	互いの考えの違いや意図をはっきりさせ、計画的に話し合う。よりよいまちをつくるための意見に説得力をもたせるために、資料の活用方法について学び発表に生かす。
特別の教科 道徳 「車いすでの経験から」	1	誰に対しても思いやりの心を持ち、今自分ができる精一杯のことをしようとする心情を育てる。単元全体を通して、思いやりの心をもって学習に臨むことができるようにしていく。

合計時数 23 時間

6 備考

- 可能であれば、各グループで考えた内容を施設に提案したい。
○見学施設に関しては、地域コーディネーターに依頼し、セッティングする。

1 単元名 発信しよう！武蔵野市の魅力

学習テーマ 武蔵野の魅力発信

2 育成を目指す資質・能力

○知識・技能の習得	（社会参画）地域や社会的課題などへの理解
○思考力・判断力・表現力等の育成	（自立）情報を活用する力 （社会参画）よりよい地域・社会づくりに向けた課題解決能力
○学びに向かう力・人間性等の涵養	（協働）自己有用感 （社会参画）公共心、社会連帯の自覚

3 単元において具体的に育成を目指す資質・能力

○知識・技能の習得	調べ学習や地域の商店、年中行事に携わる方へのインタビューを通して我が国や東京都、本市の観光に関する状況や取組について知り、海外を含め、より多くの人に来街してもらうために様々な人々が工夫や努力していることについての理解を深める。
○思考力・判断力・表現力等の育成	調べたことを基に、より多くの人に武蔵野市の魅力を伝える「武蔵野市PRパンフレット」やプレゼンテーションをまとめ、発信する学習を通して、武蔵野市の特色やよさについて考え、発信する力を育む。
○学びに向かう力・人間性等の涵養	武蔵野市観光機構等と連携し、作成したパンフレット等を使って武蔵野市PRの仕方を考えるなど、武蔵野市のよさや魅力について考え、発信しようとする態度を育む。

4 中核となる教科等の単元計画（中核教科等名：総合的な学習の時間）

ねらい	時数	主な学習活動	関連教科・関連団体
観光立国を推進している国の現状を知り、観光推進による利点などについて考える。	1	訪日外国人数の変化のグラフなどから、我が国の観光客数の推移を読み取り、観光客数がなぜ増加している考える。 日本への観光客が増えることでどのような利点などがあるか考え、観光庁の資料等から観光に関する経済波及効果などについて調べる。	観光庁HP
武蔵野市のよさや特徴について考え、武蔵野市の魅力を発信する計画を考える。	2	武蔵野市のよさや特徴について自分なりに考え、おススメの場所・行事・食事・交通などについて、武蔵野市に来街する人々や観光客に武蔵野市の魅力をPRするためのパンフレットを作成し、発信するための計画をつくる。	国語
武蔵野市のよさや特徴について、調べ学習やインタビュー等を通して理解を深める。	6	武蔵野市観光機構やむさしのキッズページのホームページから武蔵野市のよさや特徴などを調べる。 学区近隣の場所やお店等にも武蔵野市の魅力として発信したい場所がないか調べ、インタビュー等を行う。	むさしのキッズページ 近隣店舗等
武蔵野市の魅力をまとめたパンフレット等を作成し、そのよさを発信しようとする。	5	武蔵野市PRパンフレットなどを作成し、武蔵野市観光機構の担当者や地域の方々等にプレゼンテーションを行う。 武蔵野市観光機構の協力を得て、作成したパンフレット等を活用した武蔵野市PR作戦を考える。	武蔵野市観光機構

5 関連する教科等の学習活動

関連教科等名	時数	主な学習活動
国語「ようこそ、私たちの町へ」	12	武蔵野市民科としての本単元と関連させ、武蔵野市のよさを伝えるパンフレットについて、効果的な構成や材料の配置、記述を考えて編集・作成をする。
特別の教科 道徳C-14「社会や公共のために役立つ一校守の話」	1	桜守の佐野藤右衛門さんの人々のために働く姿から、社会や公共のために役立つことの大切さについて考えるとともに、武蔵野市民科としての本単元と関連させ、武蔵野市においても、まちを訪れる人々のために働く人々がいることにつなげていく。

合計時数 27 時間

6 備考

- 武蔵野市PRパンフレットの構成・記事作成・推敲については国語を中心に行う。
- 特別の教科 道徳では、本市においても市民ボランティアなどが活躍していることを取り上げる。

1 単元名 わたしたちの生活と政治

学習テーマ 主権者

まちづくりへの参画

2 育成を目指す資質・能力

○知識・技能の習得	（社会参画）地域や社会的課題などへの理解
○思考力・判断力・表現力等の育成	（自立）情報を活用する力 （社会参画）よりよい地域・社会づくりに向けた課題解決能力
○学びに向かう力・人間性等の涵養	（協働）よりよい生活を協力して築こうとする態度 （社会参画）公共心、社会連帯の自覚

3 単元において具体的に育成を目指す資質・能力

○知識・技能の習得	自分たちの地域や市全体でどのような課題があるかを知り、地方公共団体は、市民の生活の安定と向上を図るために、大切な動きをしていることを理解する。
○思考力・判断力・表現力等の育成	地方公共団体がどのような過程を経て、政策の実現を行っているのかを調べ、その役割を考えるとともに、一市民として、今後どのような政策が必要か考える課題解決能力を育成する。
○学びに向かう力・人間性等の涵養	自分たちの地域や市には、どのような課題があるか、社会の一員としてそれら課題を解決するにはどうしたらよいか考え、進んで関わろうとする態度を養う。

4 中核となる教科等の単元計画（中核教科等名：社会）

ねらい	時数	主な学習活動	関連教科・関連団体
政治の役割について身近な事例をとおして理解し、学習問題をつくる。	1	政治について辞書で意味を確かめた上で、学校や地域にある政治の働きによってつくられたものにはどのようなものがあるか考える。 学習問題「私たちのくらしは政治とどのように結びついているか」を設定する。	
地方公共団体の働きについて各種資料等を調べ、理解を深める。	2	HP「むさしのキッズページ」から市が取り組んでいる事業について調べる。 日本初のコミュニティバス「ムーバス」がどのように実施されるようになったのかについて調査活動を行う。	市役所交通対策課
市議会の働きについて各種資料を調べたり、実際に見学することをおして理解を深める。	2	市役所にある議場を見学し、市議会の役割を知るとともに、ムーバスをはじめとした様々な市の事業がどのように実行されるかを調べる。	市役所議会事務局
市民の願いを実現するために、税金が重要な役割を果たしていることについて、理解を深める	1	身のまわりや学校の中で、税金で賄われているものにはどのようなものがあるか調べる。 租税教室や「租税教育用副教材 税金のはなし」で租税の役割について知る。	武蔵野税務署
学習問題についてまとめるとともに、今後、市としてどのような取組が必要になるか考える。	1	学習問題について調べてきたことをフローチャートにまとめ、整理する。 国語科で行う「未来がよりよくあるために」において、自分たちのまちをこれからどのようにしていきたいか考えていく。	

5 関連する教科等の学習活動

関連教科等名と単元名	時数	主な学習活動
国語「未来がよりよくあるために」	11	私たちのまちをどんな未来にしていきたいか考え、地域の人や保護者、市役所の人などと意見交換を行い、自分の意見文を書き、発信する。

合計時数 18 時間

6 備考

関連教科の取組は、中核教科の実践後になることが想定される。そのため、導入時には、中核教科の社会科での学習を想起させるように工夫する。

1 単元名 武蔵野ルネサンス

関連テーマ まちづくりへの参画

2 育成を目指す資質・能力

○知識・技能の習得	（社会参画）地域や社会的課題などへの理解
○思考力・判断力・表現力等の育成	（協働）目標達成に向けた他者との協力 （社会参画）よりよい地域・社会づくりに向けた課題解決能力
○学びに向かう力・人間性等の涵養	（協働）よりよい生活を協力して築こうとする態度 （協働）自己有用感 （社会参画）公共心、社会連帯の自覚

3 単元において具体的に育成を目指す資質・能力

○知識・技能の習得	調べ学習や地域のフィールドワークをとおして、地域の現状や課題について理解を深め、地域に潜む問題やその背景・要因をつかむ。
○思考力・判断力・表現力等の育成	調べたことを基に、地域の活性化について具体策をプレゼンテーションの形式で発表することをとおして、望ましい解決策を考える力や地域の将来像を提案する力を育む。
○学びに向かう力・人間性等の涵養	地域のフィールドワークやプレゼンテーションをとおして、経済・社会的公正や環境の尊重、将来世代への責任などの態度を育む。

4 中核となる教科等の単元計画（中核教科等名：総合的な学習の時間）

ねらい	時数	主な学習活動	関連教科・関連団体
「地域と自分の絆（つながり）」を調べ、理解を深めることで、地域に対する愛着や帰属意識を高める。	2	「わが町ヒストリーを作ろう」 「武蔵野と私」をテーマに、「家族はなぜこの地を生活地として選んだのか」「自分が育ったまちの特徴は何か」など、自分と地域とのつながりを関係者のインタビューなどをとおして調査活動を行う。	
日本の地域社会を取り巻く現状と地域活性化の必要性について理解する。	2	「考える力の土台づくり」 「人口減少・高齢化」「国際化・グローバル化」「環境問題」などの諸課題や地域活性化が必要とされている現状など、日本の地域社会を取り巻く潮流について調べ、まとめる。	
事例を基に地域活性化について考え、理解を深める。	2	「事例から知恵を学ぼう」 地域活性の取組事例（例：島根県海士町…町消滅の危機に直面した離島・海士町の活性化）を知り、地域活性化の方策について理解する。	
フィールドワークを中心に地域活性化に向けた具体策をグループで考える。	6	「身近な地域で地域力を考えてみよう」 「自分の地域では何が課題となっているのか」について、生徒が暮らす地域に点在する商店街やオフィスなどのフィールドワークを行い、地域活性化のための具体策についてグループで考える。	近隣店舗等
地域活性化につながる案をプレゼンテーション形式で発信する。	3	「地域活性化の案を発信しよう」 グループごとに考えた具体策をプレゼンテーションの形式で発表し、商店街や市役所の方にも参加していただいて、各グループが提言した案を評価してもらう。	

5 関連する教科等の学習活動

関連教科等名	時数	主な学習活動
社会（地理的分野） 身近な地域の調査	6	身近な地域に関するテーマの設定、調査方法（野外観察、聞き取り調査）、地形図などの地図や写真の活用、本や統計資料の活用、調査結果のまとめと発表

合計時数 21 時間

6 備考

参考資料『社会参画の授業づくりー持続可能な社会にむけてー』（泉貴久編、古今書院、2012年）

1 単元名 教室美化からルールのあり方を考えよう

学習テーマ 主権者

2 育成を目指す資質・能力

○知識・技能の習得	（協働）他者理解、人間関係形成
○思考力・判断力・表現力等の育成	（協働）目標達成に向けた他者との協力
○学びに向かう力・人間性等の涵養	（自立）規範意識、責任感 （協働）よりよい生活を協力して築こうとする態度

3 単元において具体的に育成を目指す資質・能力

○知識・技能の習得	教室美化のためのルールづくりの意義や、その手順・方法とともに、法やきまりの意義について理解を深める。
○思考力・判断力・表現力等の育成	教室美化という目標のために、どのようなルールや取組が必要か考え、合意形成を図る力を育成する。
○学びに向かう力・人間性等の涵養	皆が気持ちよく学級内で過ごせるよう、主体的にルール作りに関わったり、ルールを利用しながら活動に取り組もうとしたりする姿勢を養う。

4 中核となる教科等の単元計画（中核教科等名：学級活動）

ねらい	時数	主な学習活動	関連教科・関連団体
学級における生活上の諸問題の一つとして教室美化の課題をつかむ。	事前準備	学級における生活上の問題の一つとして、教室美化のためのルール作りを取り上げ、「今の教室環境は過ごしやすいものになっているか」「問題点は何か、解決のためにどうしたらよいか」などのアンケートを、学級委員や班長中心に作成し、配布、回答、集約まで行う。	
提案理由や目当てを大切にしながら、教室美化のためのルールをつくることができる。	1	事前に行ったアンケートの結果を発表し、現行のルールや取組を、どのように改善したらよいか、班ごとに話し合う。 班ごとに話し合われた内容を発表し、学級の意見としてまとめ、新しいルールを設定し、1か月間取り組む。	
1か月間の取組を振り返り、問題点の改善についてさらに考えることができる。	1	1か月間取り組んだ内容について振り返り、改善された点、問題点等について確認する。 問題点を改善するために、どのような見直しが必要か話し合い、生徒全員の合意形成により、今後の方針を定める。	
社会や集団が気持ちよく生活できるように、「法やきまりを守る心」について考える。	1	法やきまりの意義にはどのようなものがあるか考える。 法やきまりにないことは行ってもよいか、具体例を基に考え、法の遵守とともに、相手の立場や考えを尊重していくことの大切さに気付く。	法律実務家（東京都行政書士会、東京司法書士会等）

5 関連する教科等の学習活動

関連教科等名と単元名	時数	主な学習活動
特別の教科 道徳A-1「自主、自立、自由と責任」	1	自律の精神を重んじ、自主的に考え、誠実に実行してその結果に責任をもつことについて、具体的事例をとおして考える。

合計時数 4 時間

6 備考

参考 東京都教育委員会HP…「法」に関する教育カリキュラム等
法律実務家（東京都行政書士会、東京司法書士会等）による法律教室や出前授業を取り入れる。

1 単元名 職場体験から考える将来の自分

学習テーマ キャリア発達

2 育成を目指す資質・能力

○知識・技能の習得	(自立) 自己理解、自己管理
○思考力・判断力・表現力等の育成	(自立) 情報を活用する力 (協働) 目標達成に向けた他者との協力
○学びに向かう力・人間性等の涵養	(協働) 自己有用感 (社会参画) 公共心、社会連帯の自覚

3 単元において具体的に育成を目指す資質・能力

○知識・技能の習得	実際の体験や事前学習等をとおして、自身の適性や心構え、マナーなどの理解を深める。
○思考力・判断力・表現力等の育成	事前学習や体験先での共同作業等をとおして、働くことの意義や、仕事が人々の生活にどのように役立っているか、チームワークの重要性を考え、ポスターセッションをとおして下学年等に伝えていく。
○学びに向かう力・人間性等の涵養	体験等をとおして、自身の人生設計をデザインしようとする姿勢や、望ましい勤労観・職業観を養う。

4 中核となる教科等の単元計画 (中核教科等名：総合的な学習の時間)

ねらい	時数	主な学習活動	関連教科・関連団体
働くことの意義や心構えを考え、自身の適性や将来設計を基に職場体験先の希望を考える。	3	働くことの価値や、店等でどのような人がどのような作業をしているか考え、体験前の自身の勤労観を把握し、協力の重要性に気付く。 職業人の話を聞き、仕事観を深める。 自身の適性などを基に職場体験先の希望を考える。	
ビジネスマナー講習や、体験先の職場訪問、シミュレーションなど、職場体験の準備を行う。	3	ビジネスマナー講習をとおして、職場体験の心構えや態度、言葉遣いなどのあり方を学ぶ。 職場体験前に、体験先の概要や特徴を調べ、まとめる。 打合せのシミュレーションを行い、体験先と事前打合せをする。	地域コーディネーター 体験先企業等
実際に体験し、働くことの意義や一人一人の役割等考える。	18	職場体験本番。 体験の中で感じたことや、個々の役割にどのようなものがあったか、働くことの意義などをワークシートに記録として残す。	体験先企業等
職場体験で学んだことをポスターにまとめ、発表することをとおして、	5	職場体験で学んだことを、それぞれにポスターとしてまとめ、1、3年生や保護者に発表する。	

5 関連する教科等の学習活動

関連教科等名と単元名	時数	主な学習活動
国語「気持ちを込めて書こう」	4	手紙の表現形式の特徴や書式を理解し、実際に手紙を書き、推敲したものを職場体験の御礼状とし職場体験先に送付する。手紙以外の通信手段にはどのようなものがあるか話し合う。
特別の教科道徳 C-13「勤労」	1	勤労の尊さや意義を理解し、将来の生き方について考えを深め、勤労を通じて社会に貢献していこうとする姿勢を養う。

合計時数 34 時間

6 備考

職場体験先は、地域コーディネーターの協力を得て、新規協力事業者の開拓等を行う。

1 単元名 安全な交通環境づくり

学習テーマ 安全・防災

まちづくりへの参画

2 育成を目指す資質・能力

○知識・技能の習得	（社会参画）地域や社会的課題などへの理解 （協働）他者理解、人間関係形成
○思考力・判断力・表現力等の育成	（社会参画）よりよい地域・社会づくりに向けた課題解決能力 （自立）クリティカル・シンキング（批判的思考）
○学びに向かう力・人間性等の涵養	（協働）よりよい生活を協力して築こうとする態度 （社会参画）公共心、社会連帯の自覚

3 単元において具体的に育成を目指す資質・能力

○知識・技能の習得	交通事故を防止することや、誰もがより安全で快適に通行できるようにするための具体的な対策について理解を深める。また、武蔵野市内に整備されている安全な交通環境づくりの実態について知る。
○思考力・判断力・表現力等の育成	市街地や生活道路、通学路などの交通環境に応じて、交通事故を防ぐためにはどのような対策が必要かを考えることができる。また、高齢者や障害者、子どもなどの様々な立場の視点に立って、具体的な対策について説明することができる。
○学びに向かう力・人間性等の涵養	フィールドワークや話し合い活動を通じて、現在武蔵野市に整備されている安全な交通環境を知るとともに、武蔵野市をさらに安全で誰もが快適に生活することができるようにするための、具体的な解決策を考え発信する態度を養う。

4 中核となる教科等の単元計画（中核教科等名：保健体育）

ねらい	時数	主な学習活動	関連教科・関連団体
傷害の原因と防止 傷害は、どのようなことが原因で起こり、どのすれば防止できるかについて理解する。 具体的な場面で、どんな危険が潜んでいるか考えることができる。	1	中学生の傷害の状況と、傷害は人的要因、環境要因及びそれらの相互の関わりによって発生することを理解する。 具体的な場面を設定した課題に取り組み、危険を予測するとともに、傷害を防止するための対策について考える。	
交通事故の現状と原因 中学生の交通事故の特徴と交通事故の原因について理解する。 交通事故の発生要因を事例を通して考えることができる。	1	中学生の交通事故がどんなときに多く、またどんな行動が事故のつながりやすいかを理解する。 交通事故の原因には人的要因、環境要因、車両要因があることを理解するとともに、事例を基に事故の発生要因について考える。	
交通事故の防止 交通事故を防ぐための対策について理解する。 交通事故防止のための知識を役立てる。	2	具体的な場面を設定した課題に取り組み、起こりうる事故について危険を予測する。 危険の予測に基づいて、どのように行動すればよいか安全かについて考える。 交通事故の防止には、交通環境の整備（コミュニティ道路、自転車専用通行帯、ゾーン30、スムーズ歩道等）とともに、車両の点検・整備も必要であることを理解する。 交通事故の防止に向け、自身の行動や、街における possible の改善策を考える。	

5 関連する教科等の学習活動

関連教科等名と単元名	時数	主な学習活動
総合的な学習の時間 特別活動 学校行事	2	校外学習中における安全指導 交通安全教室（スタントマンの自転車交通事故の実演を見学） 交通事故被害者遺族の方の講話
特別活動 学級活動	1	自転車の安全な利用 ・歩道でのマナー 登下校の安全 長期休業中の生活と地域での安全な過ごし方

合計時数 7 時間

6 備考

「交通静穏化」（トラフィックカーミング）：住宅地を中心に歩行者の通行や沿道住民の生活機能を脅かさない範囲で車の利用を認める考え方。日本では「歩車共存」という考え方でコミュニティ道路などの歩車共存道路が実現している。

1 単元名 日本の伝統文化を発信しよう

学習テーマ 伝統・文化理解

2 育成を目指す資質・能力

○知識・技能 の習得	（社会参画）地域や社会的課題などへの理解
○思考力・判断力・表現力等の育成	（自立）情報を活用する力 （社会参画）よりよい地域・社会づくりに向けた課題解決能力
○学びに向かう力・人間性等の涵養	（協働）自己有用感 （社会参画）公共心、社会連帯の自覚

3 単元において具体的に育成を目指す資質・能力

○知識・技能 の習得	日本の文化財や伝統文化について調べたり、体験したりすることとおして、その価値の理解を深める。
○思考力・判断力・表現力等の育成	伝統文化を継承してきた日本人の心情や文化面での国際社会における貢献の在り方について、調べたこと等から考える力や発信する力を育成する。
○学びに向かう力・人間性等の涵養	自国の文化財や伝統文化を尊重する態度や、国際社会に生きる日本人としての自覚と誇りを養う。

4 中核となる教科等の単元計画（中核教科等名：総合的な学習の時間）

ねらい	時数	主な学習活動	関連教科・関連団体
修学旅行で訪れる地域の文化財やそれらの保護・保全に関わる人々の思いを知る。	4	修学旅行で訪れる地域の文化財の概要や歴史、それらの保護や保全に取り組む人々の活動などを個人で調べる。 海外の文化財や世界文化遺産等の保存の仕方はどのようなになっているのか、日本はどのような支援を行っているかも合わせて調べる。	
調べたことを基に、訪問先の施設の特徴等をまとめ、発信する力を育成する。	4	各自で調べた内容を班で共有し、現地でどのようなルートで回るか考える。 訪問先の文化財を訪れる外国人観光客への見どころ紹介の英語PR文やインタビュー等の内容を考える。	外国語（英語）
実際に現地に赴き、日本の文化財や伝統文化のよさについて理解を深める。	8	現地に赴き、調査や取材、体験を行う。 外国人観光客へ、文化財の見どころを英語で紹介したり、インタビュー活動を行う。	特別活動 現地施設
日本の文化財や伝統文化の素晴らしさ、その保護・活用の必要性について発信する。	4	修学旅行で訪れた先の文化財をはじめとして、日本の伝統文化や世界遺産の保護・継承のあり方について各自あるいは班でポスターを作成し、発信する。	

5 関連する教科等の学習活動

関連教科等名と単元名	時数	主な学習活動
特別活動 学校行事 旅行・集団宿泊的行事	10	豊かな文化に親しむとともに、校外における集団生活のあり方や、公衆道徳、必要な行動の仕方を身に付ける。
特別の教科 道徳C-17 我が国の伝統と文化の尊重	1	優れた伝統の継承と新しい文化の創造に取り組んできた先人たちの努力等について具体例をとおして知り、国際社会を生きる日本人としての自覚を育む。

合計時数 31 時間

6 備考

--

1 単元名 SDGsから考える未来の社会

学習テーマ 国際理解

2 育成を目指す資質・能力

○知識・技能の習得	(社会参画) 地域や社会的課題などへの理解
○思考力・判断力・表現力等の育成	(自立) 情報を活用する力 (自立) クリティカル・シンキング(批判的思考) (社会参画) よりよい地域・社会づくりに向けた課題解決能力
○学びに向かう力・人間性等の涵養	(社会参画) 公共心、社会連帯の自覚

3 単元において具体的に育成を目指す資質・能力

○知識・技能の習得	SDGs(持続可能な開発目標として国連で採択された17の目標)に示された貧困や環境保全、教育の普及など17の目標項目をはじめとした国際社会が抱える問題と対策のための取組についての理解を深める。
○思考力・判断力・表現力等の育成	国際社会が抱える問題の解決に向けて自分たちが協力してできることについて考える学習をとおして、国際協力のあり方について多面的・多角的に考え、発信する力を育成する。
○学びに向かう力・人間性等の涵養	グローバル化する社会において、自分がどのように生きていけばよいか、国際的視野に立ち、主体的に行動していく態度の素地を養う。

4 中核となる教科等の単元計画 (中核教科等名: 総合的な学習の時間)

ねらい	時数	主な学習活動	関連教科・関連団体
グローバル化による社会の変化や、世界的な課題に対する興味・関心をもつ。	1	グローバル化によって、社会がどのように変わってきたか話し合い、世界各地への往来や、入手できる情報の増加といった利点とともに経済格差や紛争、環境破壊など様々な課題もあることに気付く。	
SDGsについての理解を深め、優先的に取り組むべき課題について考える。	1	日本ユニセフ協会作成のSDGsに関するテキストや動画から、持続可能な社会づくりにむけた2030年までに達成を目指す目標を知る。17の目標からなるSDGsの中から、自分が優先的に取り組みたい目標を1～3つ決める。	日本ユニセフ協会
SDGsに示された目標に関する世界の現状について具体的に理解を深める。	4	自分が取り組みたい目標に関する世界各国の現状について図書資料やインターネット等で調べるとともに、調べたことの情報交換をする。ユニセフや青年海外協力隊、市内で関連する取組を行っている団体等をゲストティーチャーに招き、実際の様子を知る。	青年海外協力隊等
持続可能な社会とするためにはどうすることが大切か、自分の考えをもつ。	3	これからの社会を、持続可能でよりよいものとするために、どうしたらよいか、様々な立場や観点から話し合う。これから自分はどのように生きていくか考え、作文を書く。	
これからの生き方に関する自分の考えを発信することで、主体的に社会に関わっていく態度を養う。	3	前時までに書いた作文をクラスで発表する。文化祭等で、全校に向けて、クラスの代表者が作文を発表するとともに、各自の決意を表現する。	

5 関連する教科等の学習活動

関連教科等名と単元名	時数	主な学習活動
社会公民「よりよい社会を目指して」	5	身近な地域や我が国の取組との関連性に着目させ、世界的な視野と地域的な視野から、よりよい社会を構築するために解決すべき課題について考察する。

合計時数 17 時間

6 備考

SDGsに関する資料は、日本ユニセフ協会のHP「学校のための持続可能な開発目標ガイド」を参照。
 その他、参照資料として東京都教職員研修センター作成「多様な教育課題に対応したカリキュラムモデル」がある。